

師、歯科医師の身だしなみに対する不快感調査-。日本医事新報, (印刷中), 2010.

52. 蒼口 進, 山部こころ, 前田博史: メタン生成古細菌 *Methanobrevibacter* の口腔疾患への関わり。日本臨床腸内微生物学会誌, 第12巻, 第1号(印刷中), 2010.

#### 学会発表

1. Senpuku H, Tominaga A, Nakajima J, and Komori Y. Relationship between inhibition effects on HIV-1 infection of Lactoferrin and TNF- $\alpha$  production. 13<sup>th</sup> International Congress of Mucosal Immunology. Tokyo, July 9-12, 2007.
2. 泉福英信, 茂木瑞穂、田村昌平、*S. mutans* と他の streptococci との混合培養バイオフィームにおける GlrA の役割、第49回歯科基礎医学会、札幌、2007年8月29日~8月31日。
3. 泉福英信、木村晴夫、西牟田守、島田美恵子、中川直樹、吉武裕、体力と口腔微生物叢との関係、第62回日本体力医学会、秋田、2007年9月14日~9月16日。
4. 泉福英信、多田章夫、小森康雄、歯科医療における院内感染対策の導入とその対策について、第56回口腔衛生学会、東京、2007年10月3日~10月5日。
5. 佐藤則文、中村盛幸、山崎統資、泉福英信、*Candida albicans* の Biofilm 形成および口腔上皮細胞への付着性に及ぼすヒノキチオールの効果に関して、第56回口腔衛生学会、東京、2007年10月3日~10月5日。
6. 金子 昇、葭原明弘、泉福英信、花田信弘、宮崎秀夫、高齢者における唾液中抗 PAc(361-386) IgA 抗体と根面齲蝕との関連、第56回口腔衛生学会、東京、2007年10月3日~10月5日。
7. 狩山玲子、村谷哲郎、松本哲朗、門田晃一、公文裕巳、ワークショップ: 薬剤耐性と対策-GPC 「本邦で分離された VanA 型 *Enterococcus faecalis* (VRE) のバイオフィーム形成能および薬剤耐性遺伝子の伝達性に関する検討」、第81回日本感染症学会総会 : 京都 2007, 4. 10-11
8. 狩山玲子、光畑律子、村谷哲郎、松本哲朗、門田晃一、公文裕巳、「バンコマイシン耐性腸球菌 (VanA 型 *Enterococcus faecalis*) のバイオフィーム形成能に関連する基礎的検討」、第21回 Bacterial Adherence & Biofilm 学術集会 : 東京 2007, 7. 7
9. 狩山玲子、門田晃一、公文裕巳、「緑膿菌性バイオフィームに対するフルオロキノロン系薬とホスホマイシンの併用効果に関する新知見」、第55回日本化学療法学会西日本支部総会 : 神戸 2007, 10. 29-31
10. 山本満寿美、狩山玲子、光畑律子、石井亜矢乃、上原慎也、渡辺豊彦、門田晃一、公文裕巳、草野展周、「メタロ- $\beta$ -ラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィーム形成能と耐性遺伝子伝達性の検討」、第42回 緑膿菌感染症研究会 : 東京 2008, 2. 1-2
11. 山本満寿美、形山優子、千田好子、光畑律子、狩山玲子、「誤嚥性肺炎患者の口腔および吸引痰から検出された MRSA と緑膿菌の分子疫学的検討」、第23回日本環境感染学会総会 : 長崎 2008, 2. 22-23.

12. 森 みずえ、千田好子、光畑律子、狩山 玲子、「気管内吸引を必要とする在宅療養患者に対する感染管理と口腔ケアの実態調査および細菌学的検討」、第 23 回日本環境感染学会総会 : 長崎 2008, 2. 22-23
13. 曾我賢彦, 杉浦裕子, 工藤值英子, 松浦香織, 久枝綾, 妹尾京子, 高柴正悟: 造血幹細胞移植患者の敗血症に口腔粘膜からの感染が関与する可能性の検討, 第 7 回 Okayama Hematology Conference, 2007/6/30.
14. 曾我賢彦, 工藤值英子, 松浦香織, 妹尾京子, 杉浦裕子, 蒼口進, 新井英雄, 高柴正悟: 造血幹細胞移植中に抗生剤多剤耐性の日和見感染症起因菌が歯肉粘膜に増殖した症例, 日本歯周病学会 50 周年記念大会, 2007/9/22.
15. Hassan Wael, 谷本一郎、前田博史、杉浦裕子、曾我賢彦、蒼口進、高柴正悟: 骨髄移植患者の口腔内細菌叢の変化 (Changes in the Oral Bacterial Microflora of Patients Receiving Bone Marrow Transplantation), 日本歯科保存学会 秋季学術大会(第 127 回), 2007/11/8.
16. 蒼口進, 第 50 回春季日本歯周病学会学術大会 (神奈川県横須賀市, 横須賀芸術劇場ホ) 平成 19 年 5 月.
17. 蒼口進, 第 28 回岡山歯学会総会・学術大会 (岡山市, 岡山大学 50 周年記念会館) 平成 19 年 8 月.
18. 蒼口進, 第 48 回歯科基礎医学会学術大会ならびに総会 (札幌市, 北海道大学学術交流会館) 平成 19 年 8 月.
19. 蒼口進, 日本歯周病学会 50 周年記念大会 (東京都千代田区, 東京国際フォーラム) 平成 19 年 9 月.
20. 蒼口進, 第 60 回日本細菌学会中国・四国支部総会 (総社市, 岡山県立大学講堂) 平成 19 年 10 月.
21. 蒼口進, 日本歯科衛生士学会第 2 回学術大会 (福岡市, 都久志会館) 平成 19 年 11 月.
22. 蒼口進, 日本歯科保存学会 2007 年度秋季学術大会(第 127 回) 第 9 回日韓歯科保存学会学術大会 (岡山市, 岡山コンベンションセンター) 平成 19 年 11 月.
23. 蒼口進, 第 81 回日本細菌学会総会 (京都市, 国立京都国際会館) 平成 20 年 3 月.
24. Hidenobu Senpuku, Saori Yoneda and Haruo Watanabe, A quick diagnosis system for salivary antibody to *S. mutans* and potential caries risk, 108<sup>th</sup> ASM General meeting, Boston, Jun, 2008.
25. Moriyuki Nakamura, Taisuke Fujibayashi, Akira Tominaga, Taketo Kawarai, N. Satoh, Tsuneyoshi Yamazaki, and Hidenobu Senpuku, Preventive Effects of Hinokitiol Against *C. albicans* Adherence to Epithelial Cells, 87th general session and exhibition of the International Association for Dental Research, Toronto, Canada. July. 2008.
26. Hiroaki Takeuchi, T. Kawauchi, Kentaro Okuda, K. Tanaka, K. Kawamura, Yoshiaki Nomura, Hidenobu Senpuku, and Nobuhiro Hanada, Physicochemical treatment against periodontopathic bacteria using 3DS and azithromycin, 87th general session and exhibition

- of the International Association for Dental Research, Toronto, Canada. July. 2008.
27. Mizuho Motegi, Hideo Yonezawa, Ryoma Nakao, Sayuri Yoneda, Yuzo Takagi, and Hidenobu Senpuku, Roles of genes to biofilm formation in *Streptococcus mutans*, 87th general session and exhibition of the International Association for Dental Research, Toronto, Canada. July. 2008.
  28. Hidenobu Senpuku, Hidehiko Koba, and Kentaro Okuda, Characterizations of peptide binding to SRCRP2 and inhibiting streptococcal adherence, 87th general session and exhibition of the International Association for Dental Research, Toronto, Canada. July. 2008.
  29. 泉福英信、奥田健太郎、*S. mutans*の歯表面付着阻害ペプチドの特徴、第50回歯科基礎医学会、東京、2008年9月24日
  30. 猪原光、河原井武人、米田早織、植松宏、泉福英信、1型糖尿病およびシェーグレン症候群発症における *e2f-1* の役割、第50回歯科基礎医学会、東京、2008年9月24日
  31. 泉福英信、歯科診療における院内感染対策の導入に関するアンケート調査の分析、第57回日本口腔衛生学会・総会、大宮、2008年10月4日
  32. 山本満寿美、狩山玲子、光畑律子、石井亜矢乃、上原慎也、渡辺豊彦、門田晃一、公文裕巳、草野展周、「メタロ-β-ラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能および分子疫学的検討」、第56回日本化学療法学会総会：岡山 2008, 6. 6-7.
  33. 佐古真一、和田耕一郎、光畑律子、石井亜矢乃、上原慎也、渡辺豊彦、狩山玲子、門田晃一、公文裕巳、「尿路感染症由来緑膿菌のバイオフィルム形成能と臨床的背景の関連性の検討」、第56回日本化学療法学会西日本支部総会：広島 2008, 12. 6-7.
  34. 山本満寿美、狩山玲子、光畑律子、公文裕巳、千田好子、「メタロ-β-ラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能およびその問題点と対策」、第24回日本環境感染学会総会：横浜 2009, 2. 27-28
  35. Hassan W, Tanimoto I, Maeda H, Kokeguchi S, Soga Y, Sonoji S, Y. Kiode Y, Sugiura Y, and Takashiba S, Oral bacterial microflora changes in patients receiving bone marrow transplantation. 86th General Session & Exhibition of the IADR, 2008/7/4 Toronto, Canada.
  36. Tatsuro Ito, Hikaru Matsui, Takahide Maeda, Haruo Watanabe, Hidenobu Senpuku. Establishment of new mouse model using NOD/SCID. *e2f-1*<sup>-/-</sup> mouse for initial adhesion and biofilm formation of *Streptococcus mutans*. 5th ASM Conference on Biofilms. November 15-19, 2009. Cancun, Mexico
  37. 泉福英信、米田早織、歯科医療における院内感染対策の導入における評価指標の確立、第58回日本口腔衛生学会・総会、岐阜、2009年10月10日
  38. 佐久間三保子、泉福英信、植松宏、歯科診療における院内感染対策の意識変化とその分析、日本口腔衛生学会関東地方会、東京、2010年3月14日

39. 狩山玲子、石井亜矢乃、上原慎也、渡辺豊彦、公文裕巳、尿路由来メタロ-β-ラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能および耐性遺伝子伝達性の検討、第83回日本感染症学会総会：東京 2009, 4, 23-24.
40. 山本満寿美、狩山玲子、光畑律子、石井亜矢乃、上原慎也、渡辺豊彦、公文裕巳、メタロ-β-ラクタマーゼ産生緑膿菌のバイオフィルム形成能および *bla*<sub>IMP-1</sub> 遺伝子の伝達性に関する検討、第23回 Bacterial Adherence & Biofilm 学術集会：東京 2009, 7, 11
41. Kariyama R, Yamamoto M, Mitsuhashi R, Ishii A, Uehara S, Watanabe T, Kumon H, Biofilm-forming capabilities and molecular epidemiology of metallo-β-lactamase-producing *Pseudomonas aeruginosa*, ASM Conference on Biofilms 2009: Cancun, Mexico 2009.
42. 山本満寿美、原田悦子、吉本静雄、狩山玲子、公文裕巳、長期尿路カテーテル留置患者における臨床的背景および細菌尿に関する検討、第25回日本環境感染学会総会：東京 2010.
43. 杉浦裕子 今、地域医療の中で Co Dental Staff に求められているもの～口腔ケアチーム医科歯科連携の中で学んだこと～、福山日備会、平成21年9月29日
44. 高柴正悟 メタボリック症候群の検査に取り入れられるか？ 歯周感染の検査、第2回日本口腔検査学会総会・学術大会、広島、平成21年10月4日
45. 杉浦裕子 移植患者の口腔衛生管理～保湿と保清を中心とした口腔ケア～、東京大学医学部血液内科主催講演会、東京、平成21年11月10日
46. 杉浦裕子 チームで取り組む口腔衛生管理の実際～保湿と保清ケアを中心に～、高知口腔ケアフォーラム、高知、平成21年12月12日
47. Susumu Koikeguchi, 87th General Session & Exhibition of the IADR. (Miami, FL, USA) April 1-4, 2009.
48. 苔口進、第2回岡山医療教育国際シンポジウム (The Second International Symposium of Medical and Dental Education in Okayama) (岡山市、岡山大学創立五十周年記念館) 平成21年5月.
49. 苔口進、第50回日本歯科医療管理学会総会・学術大会 (東京都千代田区、歯科医師会館)、平成21年7月.
50. 苔口進、第4回日本歯科衛生学会学術大会 (大阪府枚方市、大阪歯科大学楠葉学舎)、平成21年9月.
51. 苔口進、第12回日本臨床腸内微生物学会総会 (岐阜市、じゅうろくプラザ)、平成21年9月.
52. 苔口進、The 8th East Asian Conference on Infection Control and Prevention 第8回東アジア感染制御カンファレンス (東京都江東区、東京ビッグサイト有明・東京国際展示場)、平成21年11月.

平成 22 年 2 月 4 日

歯科医療における院内感染対策シンポジウム  
(平成 21 年度厚生労働省科学研究班 研究発表会)  
—地域医療基盤開発推進研究事業—

研究課題: 歯科医療における院内感染対策の評価指標の開発と有効性の検証  
(H19-医療-一般-007)

会場: 国立感染症研究所共用第一会議室

時間: 午後 1 時 00 分～5 時 00 分

参加者: 主任研究者: 国立感染症研究所細菌第一部 室長 泉福英信  
研究協力者: 国立感染症研究所細菌第一部 協力研究員 米田早織

分担研究者: 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 助教  
狩山玲子

研究協力者: 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学 研究員  
山本満寿美

分担研究者: 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科歯周病態学 教授  
高柴正悟

分担研究者: 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科口腔微生物学 准教授  
苔口 進

招待講演演者: 鶴見大学歯学部第二歯科保存学教室 講師

小澤寿子

招待講演演者: 国立保健医療科学院 口腔保健部 客員研究員

井上一彦

## プログラム

1 時 00 分～1 時 10 分 厚生労働省医政局歯科保健課 課長補佐 鳥山佳則  
ご挨拶

1 時 10 分～1 時 20 分 研究代表者 国立感染症研究所 泉福英信  
主旨説明および研究内容の説明

招待講演1 座長 泉福 英信

1 時 20 分～1 時 50 分 鶴見大学 小澤寿子

招待講演2 座長 泉福 英信

1 時 50 分～2 時 20 分 国立保健医療科学院 井上一彦

(招待講演1の発表について2の演者との討論および招待講演2の発表について1の演者との討論を1時20分～2時20分の間二に行う。)

研究報告会 座長 高柴正悟

2 時 20 分～2 時 45 分  
研究項目: 歯科医療における院内感染対策の評価指標および基準の決定とその有効性の検証  
国立感染症研究所 泉福英信

2 時 45 分～3 時 10 分  
研究項目: 歯科医療現場における歯科医師とスタッフの感染対策に対する認識の比較  
東京医科大学 小森康雄

3 時 10 分～3 時 35 分  
研究項目: 医療における緑膿菌性バイオフィームの問題点とその対策および抗バイオフィーム剤の探索  
岡山大学 狩山玲子

3 時 35 分～4 時 00 分 分担研究者(狩山玲子)による研究内容の説明

研究項目:院内感染における薬剤耐性菌の評価指標の開発

4時00分～4時25分 分担研究者(高柴正悟)による研究内容の説明

研究項目:歯周病診療における院内感染の評価指標の開発とその有効性(易感染性患者の口腔内細菌叢の評価指標の開発に向けた分子生物学的細菌検査法の応用とその有用性の検討)

4時25分～4時50分 分担研究者(苔口進)による研究内容の説明

研究項目1:研修歯科医師における感染予防対策に対する意識と行動について(第1報)

研究項目1:簡易ATP発光測定法の歯科院内環境汚染状況調査への適用-細菌飛散状況調査および歯科診療水細菌生息調査-

研究協力者:佐藤法仁、渡辺朱理(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 口腔微生物学分野)

狩山玲子(岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学)

4時50分～5時00分 総合討論

性（男 女） 年齢 歳

標榜科目： 一般歯科、口腔外科、矯正、小児歯科

1 卒業年度

- (1) 昭和40年以前
- (2) 昭和41～50年
- (3) 昭和51～60年
- (4) 昭和61～平成7年
- (5) 平成8年以降

2 自分の歯科診療所でH I V感染者の歯科治療を受け入れる意思がありますか

- (1) ある
- (2) ない

3 神奈川県歯科医師会に登録してH I V感染者の紹介を受けますか

- (1) 受ける
- (2) 受けない
- (3) すでに登録済み
- (4) 考慮中

4 H I V感染者の歯科治療を、自分の歯科診療所以外なら行う意志がありますか

- (1) ある
- (2) ない

5 過去3年以内にH I V感染者の歯科治療をしたことがありますか

- (1) ある
- (2) ない



6 HIV感染患者の歯科治療を拒否することはモラル的によくないと思いますか

- (1) 思う
- (2) 思わない

7 HIV感染患者の歯科治療を自分の診療所で行うことにより、他の患者が来なくなる恐れがあると思いますか？

- (1) 思う
- (2) 思わない

8 自分の診療所でB型肝炎、C型肝炎患者の歯科治療はどうお考えですか

- (1) どちらも可能
- (2) B型のみ診療可能
- (3) C型のみ診療可能
- (4) どちらも不可

9 「スタンダードプリコーションまたはユニバーサルプリコーション」とは何か知っていますか

- (1) 理解している
- (2) 聞いたことがある
- (3) 聞いたことがない

10 唾液を介してHIVはヒトからヒトへHIVが感染すると思いますか

- (1) 血液が混じれば感染する
- (2) 血液が混じっても感染しない
- (3) 唾液単独で感染する

11 HIV感染者に対するHARRT療法を知っていますか

- (1) 知っている
- (2) 聞いたことがある
- (3) 知らない

12 患者の有する感染症を知るためにどのようにしていますか

- (1) 問診票に記載してもらう
- (2) 問診で聴取する
- (3) 検査を行う

(4) 特にしていない

1 3 防護用メガネ（フェースシールドを含む）を着用して診療していますか

- (1) 必ずしている
- (2) 時々している
- (3) 感染症の患者の時だけ使用している
- (4) 着用していない

1 4 マスクを着用して診療していますか

- (1) 必ずしている
- (2) 時々している
- (3) 感染症の患者の時だけ使用している
- (4) 着用していない

1 5 グローブを着用して診療していますか

- (1) 必ずしている
- (2) 時々している
- (3) 感染症の患者の時だけ使用している
- (4) 着用しない

1 6 患者ごとにハンドピースを交換していますか

- (1) 必ずしている
- (2) 時々している
- (3) 感染症の患者の時だけしている
- (4) 交換していない

1 7 感染対策に関しスタッフ教育していますか

- (1) している
- (2) していない

1 8 感染対策マニュアルを作成していますか

- (1) している
- (2) していない

- 19 (歯科医師会主催やその他の)感染予防対策の研修会に参加しましたか
- (1) 参加した( 年くらい前。計 回くらい)
  - (2) 参加したことが無い
- 20 B型肝炎ワクチン接種を受けたことがありますか
- (1) ある
  - (2) ない
- 21 スタッフ(特に歯科衛生士)にB型肝炎ワクチン接種を受けさせていますか
- (1) いる
  - (2) いない
- 22 自分の歯科医院内に口腔外バキュームを設置していますか
- (1) いる
  - (2) いない
- 23 現在の1日に来院する平均患者数をお教え下さい。
- (1) 15人以下
  - (2) 16~25人
  - (3) 26~35人
  - (4) 36~45人
  - (5) 46人以上
- 24 今後1年以内に行うことができる項目に○をつけてください。(すでに行っている場合も○をつけてください。)
- (1) 院内感染対策の講習会への参加
  - (2) 院内感染対策のスタッフへの教育
  - (3) 防護用めがね、グローブの使用
  - (4) 患者ごとのタービンヘッドの交換
  - (5) 月1度の診療前のデンタルユニット給水における微生物検査および残留塩素の検査
  - (6) 診療前のデンタルユニット内給水系の除菌処置
  - (7) 診療終了後のデンタルユニット周囲の機器上の微生物汚染検査

- ( 8 ) 診療終了後のデンタルユニット周囲の機器上の除菌処置
- ( 9 ) 問診票の作製
- ( 1 0 ) スタッフの B 型肝炎ワクチンの接種
- ( 1 1 ) 口外バキュームの設置

## 将来の院内感染対策チェック項目

- 1) スタンダードプリコーションの講習会への参加
- 2) スタンダードプリコーションのスタッフへの教育
- 3) 防護用めがねの着用、グローブの使用
- 4) 患者ごとのタービンヘッドの交換
- 5) 月1度の診療前のデンタルユニット排水における微生物検査および残留塩素の検査
- 6) 診療前のデンタルユニット内の除菌処置
- 7) 診療終了後のデンタルユニット周囲の機器上の微生物汚染検査
- 8) 診療終了後のデンタルユニット周囲の機器上の微生物汚染処理
- 9) 問診票の作製
- 10) スタッフのB型肝炎ワクチンの接種
- 11) 口外バキュームの設置

## 歯科診療における院内感染対策の 意識変化とその分析

○佐久間三保子<sup>1)</sup> 泉福英信<sup>2)</sup> 植松宏<sup>1)</sup>

1) 東京医科歯科大学 高齢者歯科

2) 国立感染症研究所細菌第一部

### 緒言

歯科における院内感染対策に関わる改正

平成19年度施行 医療法改正:

歯科診療所における医療安全確保の義務化

平成20年度 歯科保険点数改正:

歯科外来診療環境体制加算(初診時30点)の算定

### 歯科外来診療環境体制加算の算定条件 ①

- 1 所定の研修を修了した常勤の歯科医師が1名以上配置されていること
- 2 歯科衛生士が1名以上配置されていること
- 3 緊急時の初期対応が可能な医療機器(AED、酸素ボンベ及び酸素、マスク、血圧計、パルスオキシメーター)を設置していること
- 4 診療における偶発症等緊急時に円滑な対応ができるよう、別の保険医療機関との事前の連携体制が確保されていること

### 歯科外来診療環境体制加算の算定条件 ②

- 5 口腔内で使用する歯科医療機器等について、患者ごとの交換や、専用の機器を用いた洗浄・滅菌処理を徹底する等十分な感染症対策を講じていること
- 6 感染症患者に対する歯科診療について、ユニットの確保等を含めた診療体制を常時確保していること
- 7 歯科ユニット毎に歯牙の切削や義歯の調整、歯の被せ物の調整時等に飛散する細かな物質を吸収できるよう、歯科用吸引装置等を設置していること
- 8 歯科診療に係る医療安全管理対策を実施している旨の院内掲示を行っていること

## 目的

歯科院内感染対策への意識や行動、知識の変化を平成18年、平成20年のアンケート調査から把握することを目的とした。

## 方法

調査方法： アンケート調査

対象： 某県の歯科医師会会員

実施機関： 平成18年度および平成20年度の2回

設問形式： 感染予防対策に対する意識、知識、行動の3項目  
26問(平成20年度は30問)出題した。

回収状況：

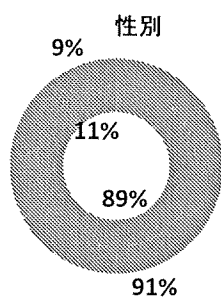
平成18年度：3873人に送付し 392人(10.1%)から回答

平成20年度：3860人に送付し 575人(14.9%)から回答

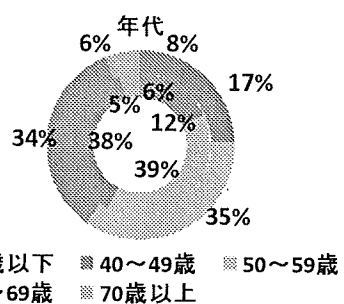


## 結果と考察

### 回答者の背景



■ 男性  
■ 女性



■ 39歳以下 ■ 40～49歳 ■ 50～59歳  
■ 60～69歳 ■ 70歳以上

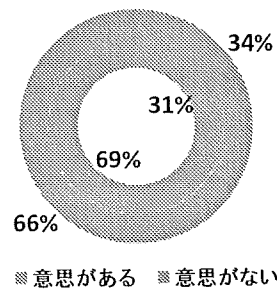
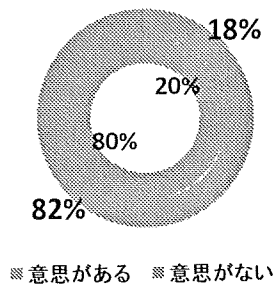
### 標榜科

内円: 平成18年度  
外円: 平成20年度


## 意識に関する項目①

自分の歯科診療所でHIV感染者の歯科治療を受け入れる意思がありますか

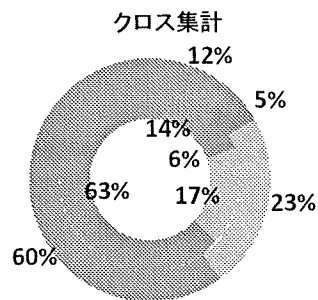
自分の歯科診療所以外ならHIV感染者の歯科治療を受け入れる意思がありますか



内円：平成18年度  
外円：平成20年度

## 意識に関する項目②

診療を行う場所とHIV感染者の歯科治療受け入れの意思との関係



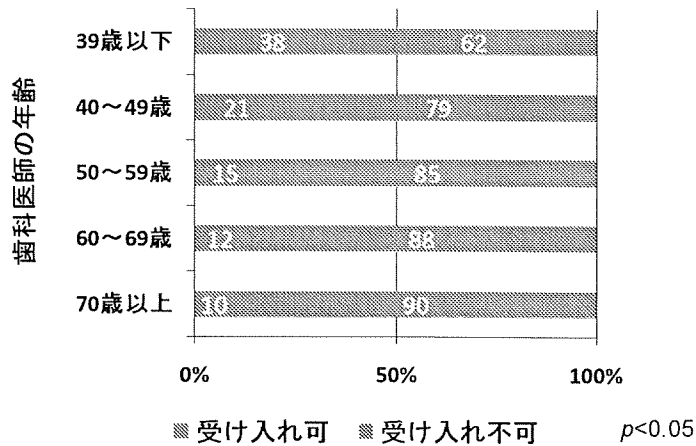
- ※ 自院でも他院でも可
- ※ 自院で可だが他院では不可
- ※ 自院で不可だが、他院でなら受け入れる
- ※ 自院でも他院でも不可

内円：平成18年度  
外円：平成20年度

### 意識に関する項目③

歯科医師の年代別、HIV患者受け入れの状況

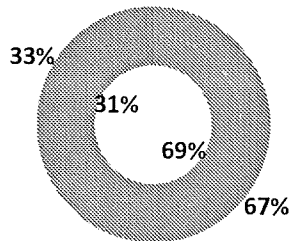
クロス集計 (平成20年度)



### 意識に関する項目④

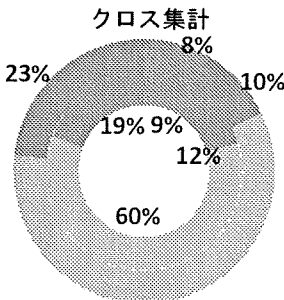
HIV感染患者の歯科治療を自院で行うことにより、他の患者が来なくなる恐れがあると思いますか

自院でHIV感染者の歯科治療を受け入れる意思の有無と、受け入れることで患者が来なくなることの懸念との関係



- その恐れがあると思う
- その恐れはないと思う

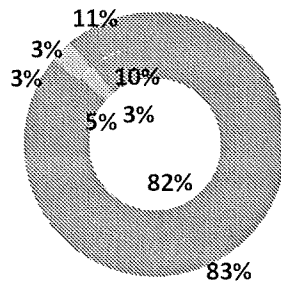
内円：平成18年度  
外円：平成20年度



- 受入可-患者が来なくなると思う
- 受入可-患者が来なくなると思わない
- 受入不可-患者が来なくなると思う
- 受入不可-患者が来なくなると思わない

## 意識に関する項目⑤

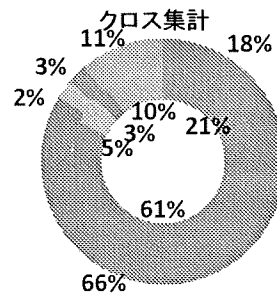
自分の診療所でB型肝炎、C型肝炎患者の歯科治療はどうお考えですか



- ※ どちらも可能
- ※ B型のみ可能

内円：平成18年度  
外円：平成20年度

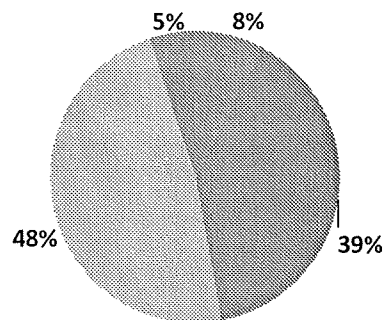
自分の診療所でB型肝炎、C型肝炎患者、およびHIV感染者の歯科治療はどうお考えですか



- ※ B型C型肝炎、HIV感染者とも可能
- ※ B型C型肝炎とも可能だがHIV感染者は不可
- ※ B型肝炎は可能だがHIV感染者は不可
- ※ C型肝炎は可能だがHIV患者は不可
- ※ B型C型肝炎、HIV感染者とも不可

## 意識に関する項目⑥

平成19年4月の医療法改正による感染対策に対する意識の変化



- ※ 明らかに変わった
- ※ やや変わった
- ※ あまりかわらない
- ※ 法改正そのものを知らない